



読書感想文を書くために

❖ 「読書感想文」受付中です

大館では今日から新学期ですね。読書感想文といえば私が子どもの頃の夏休みの宿題の定番でしたが、読書感想文って、明確に答えが決まっているものでもないし、いざ書くとすると何をどうすればいいのか分からなかったりしますよね。私は苦手です。

感想文の書き方についての本は大人になってから何冊か読みましたが、「この技術を宿題書く時に知りたかった」と思った本が2冊あります。

1冊は赤木かん子著「お父さんが教える読書感想文の書き方」。

昨年のコラムでもご紹介していました。「感想文は感動文ではない」というところから始まり、「原稿用紙を区切っておく」等の技術が分かりやすく書かれています。字の書き方について「ゆっくり書く」と表現されていたり、小学生が一人で読んでも十分わかるように書かれていると思います。「書きたい人」というよりは「書かなくてはいけないけれど書き方が分からない子（と、その子に教えなくてはいけない人）」向けです。

ただやっぱり、「すごく面白かった！」と感じたら、「ここがああでこうなる！それでこう感じた！」みたいに勢いで書けちゃうこともありますし、それも間違いではないですよ。

読書感想文の課題図書は毎年選定されています。どれも良い本ですが、その本で「自分が」感動できるかということ、ちょっと違うのではないのでしょうか。皆が感動した本でも大人が子どもに読ませたい本でもなく、自分が読んで心に響く本を探すのは難しいです。狙って見つけ出すことはほぼできません。読書体験は本当に個人的なものなのだと思います。ネット書店ではお買いもの傾向からお勧めの本を選んでくれたりしますが、本ではなくても、何となく手に取ったものが凄く良かったということは誰もおありだと思います。「こういう感じの話が好き」「この作者が好き」というのはあくまでも傾向ですから、「これがいい」に出会うためには、ちょっと数をこなしてみたり、好みじゃないものに手を出してみることも必要なのです。

そしてそんな本に出会って「誰かにこれを伝えたい！」と思った時、「書きたいことをどう書けばいいのか」を教えてくれるのが齋藤孝著「だれでも書ける最高の読書感想文」。

「グッとくるいい言葉を探す」「書きたいことを3つに絞る」ところから具体的な文章の書き方、推敲までが丁寧に説明されていますし、「答えのはっきりしない感

想文があつていい」と、「書かなくちゃいけない」から「書いてみようかな」へと気持ちを軽くしてくれます。

大館市立図書館の読書感想文コンクールは9月13日（水）までの受付です。「高校生の部」と「一般の部」で募集しております。皆様のご応募をお待ちしています。

❖文化講演会があります

9月2日（土）13時30分から、永井高道さんを講師に迎えて、「大衆歌謡の中から」というテーマで文化講演会を行います。

講師の永井さんは県総合教育センター副所長、旧大館桂高校の校長を歴任され、退職後は北秋田市の教育委員会で委員長をしていらっしゃいます。

長年に亘って流行歌とその時代、特に美空ひばりの歌をテーマに研究をしております。

ヒット曲が世代によって受け入れ難くなっていると言われて久しいですが、「歌は世につれ、世は歌につれ」という言葉があるように、流行歌が時代と共存していたのはいつ頃までであったのか。そして今、ひばりの歌が伝えたいことは何か。美空ひばりの活躍していた時代を中心に、資料に基づいてお話しいたします。場所は栗盛記念図書館1階の多目的室、参加無料です。

❖キッチンカーが来る日は毎月変わります

ご好評いただいているキッチンカーですが、来るのは毎回決まった曜日や日ではありません。毎月日程が変わります。

9月は8日（金）、13日（水）、14日（木）、20日（水）、21日（木）、29日（金）。8月は今日（25日）が最後です。

キッチンカーの日程はこのコラムか図書館のブログ、栗盛記念図書館内のお知らせでご確認ください。

（栗盛・成）